

清瀬市地域福祉計画・清瀬市民地域福祉活動計画 策定に向けた調査報告書 概要版

令和8年3月 清瀬市

1. 調査の目的

本調査は、「第5次清瀬市地域福祉計画・第5次清瀬市民地域福祉活動計画」を策定するにあたり、市民の福祉推進に関する考えやご意見を伺い、今後の福祉施策を展開するための基礎資料とするために実施したものである。

2. 調査の概要

- ・調査対象者の抽出基準日は、令和7年9月1日現在で、いずれも無記名による回収。

調査名	市民調査	団体調査	こども調査
対象者	清瀬市にお住いの18歳以上の方の中から無作為抽出	清瀬市または清瀬市社会福祉協議会が把握している活動団体（市民活動グループ、自治会・マンション管理組合、老人会、NPO法人等）を有為抽出	小学4年生～高校1年生相当の中から無作為抽出
対象者数	994件	476件	220件
有効回収数	453件 うち、オンライン回答 209件	299件 うち、オンライン回答 99件	84件 うち、オンライン回答 35件
回収率	45.6%	62.8%	38.2%
記名の有無	無記名式		
調査期間	令和7年10月20日（月）～令和7年11月25日（火）		
調査方法	郵送配布、郵送回収及びオンライン回答		

3. 概要版における表記等について

- ・グラフ中の「n」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（％）の母数をあらわす。
- ・百分率（％）は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100％にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上回答することができる設問（複数回答）の場合、その回答率の合計は100％を超えることがある。

第2章 市民調査

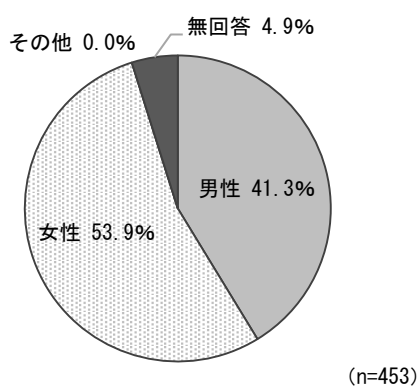
1. 基本属性

(1) 性別と年齢

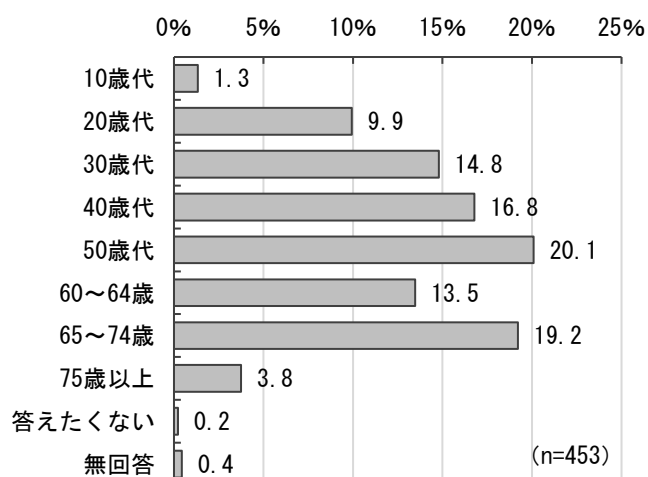
結果のポイント

- ・ 回答者の性別は、「男性」が41.3%、「女性」が53.9%
- ・ 回答者の年齢は、「50歳代」、「65～74歳」が多い

図表1 性別



図表2 年齢

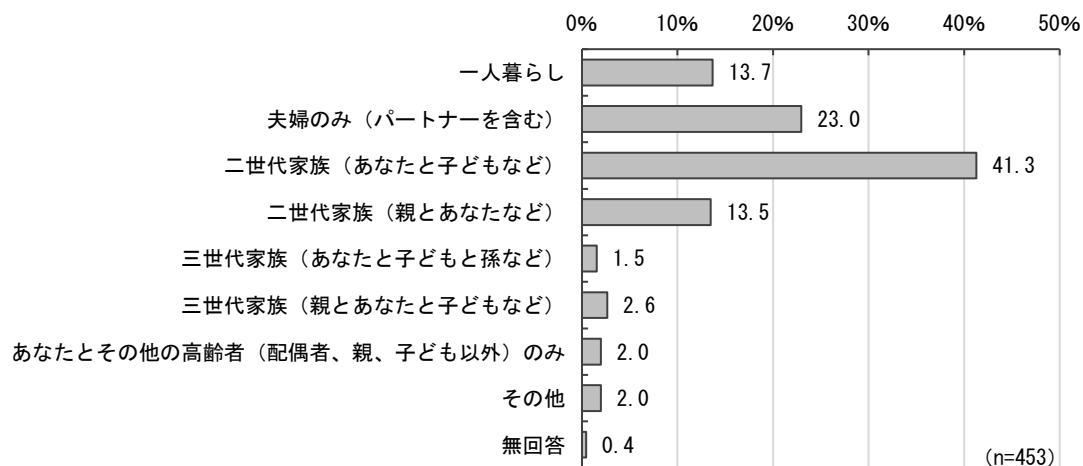


(2) 家族構成

結果のポイント

- ・ 家族構成の上位3位は、「二世世代家族（あなたと子どもなど）」が41.3%、「夫婦のみ（パートナーを含む）」が23.0%、「一人暮らし」が13.7%

図表3 家族構成



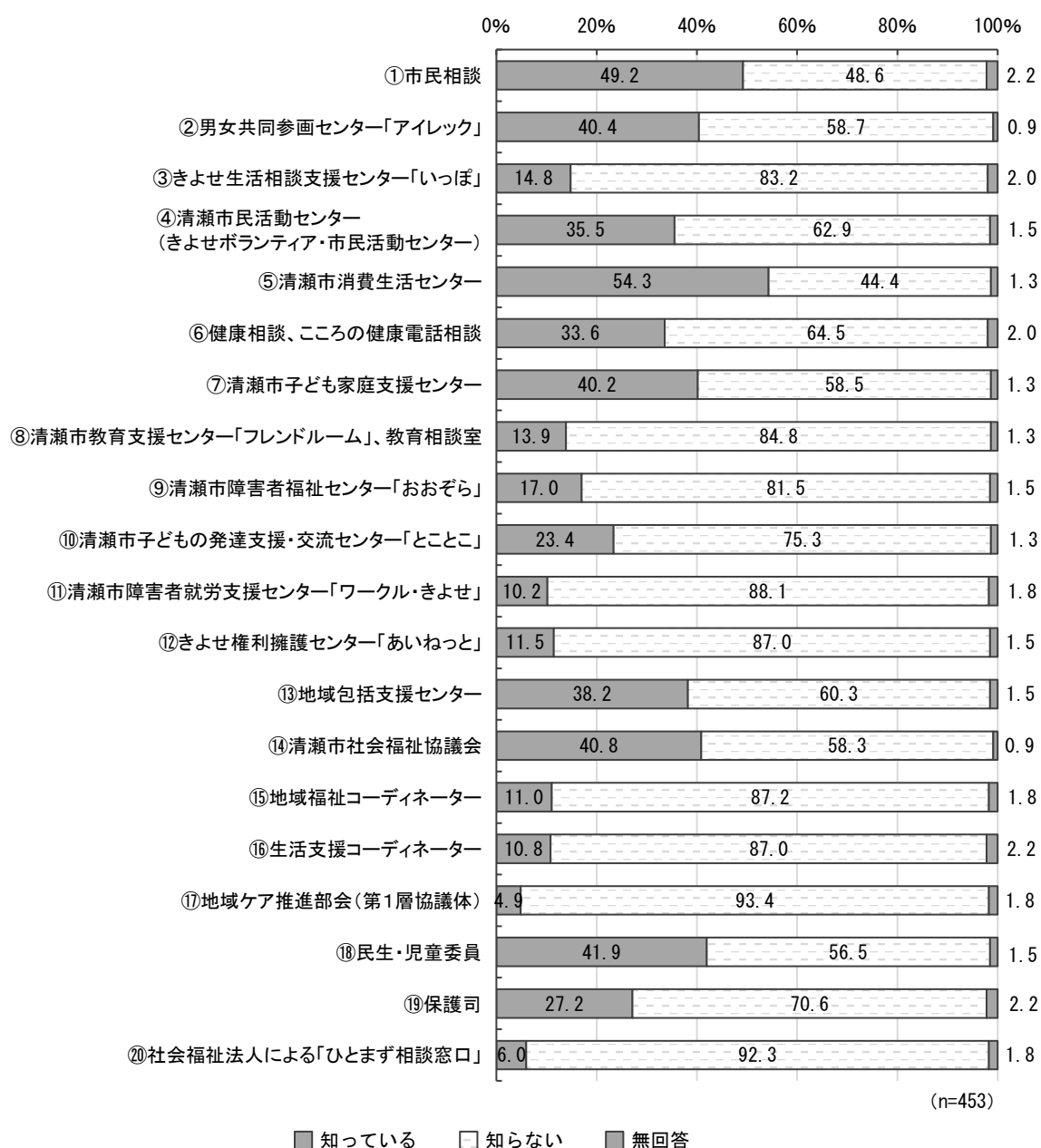
2. 相談先について

(1) 相談先の認知度

結果の ポイント

- ・ 清瀬市に関連する相談先の認知度の上位3位は、「清瀬市消費生活センター」が54.3%、「市民相談」が49.2%、「民生・児童委員」が41.9%
- ・ 「地域ケア推進部会（第1層協議体）」、「社会福祉法人による『ひとまず相談窓口』」、「清瀬市障害者就労支援センター『ワークル・きよせ』」はあまり知られていない

図表4 相談先の認知度

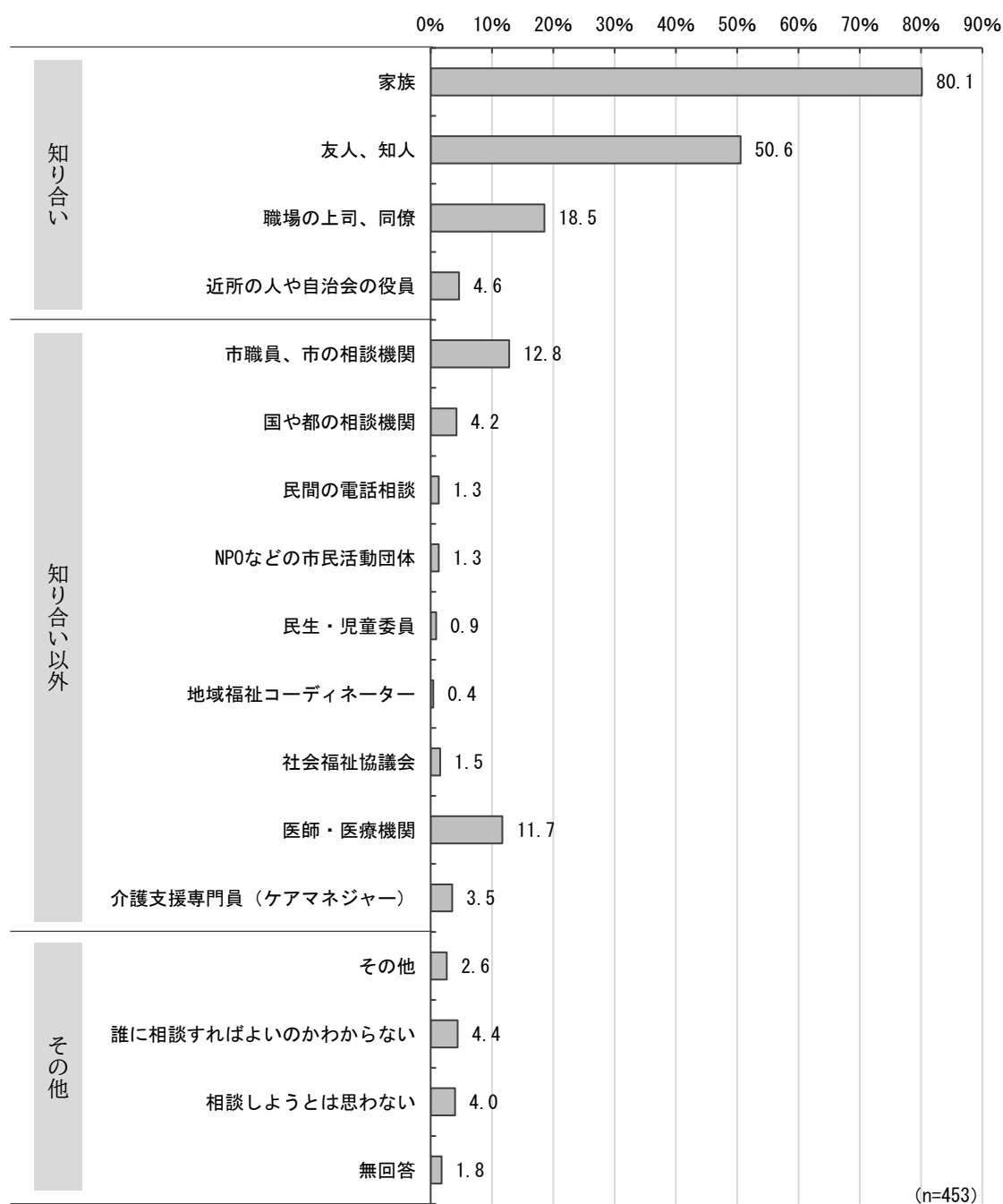


(2) 困りごとがある場合の相談相手

結果の ポイント

- ・ 困りごとがある場合の相談相手の上位3位は、「家族」が80.1%、「友人、知人」が50.6%、「職場の上司、同僚」が18.5%と知り合いが多い
- ・ 「誰に相談すればよいのかわからない」が4.4%、「相談しようとは思わない」が4.0%と、相談しない・出来ない人もいる

図表5 困りごとがある場合の相談相手

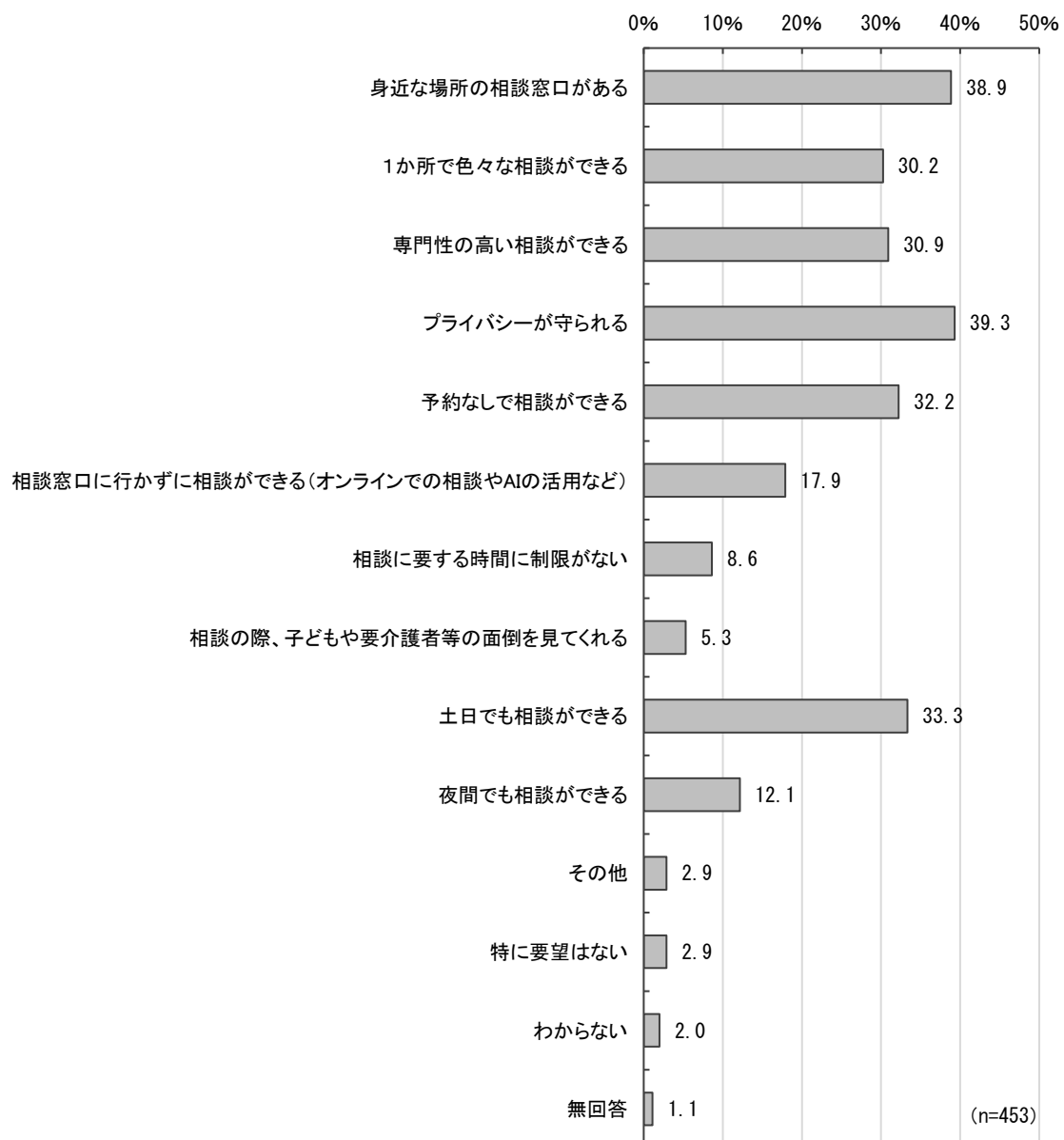


(3) 市役所などの相談窓口へ相談しやすくするために、必要だと思うこと

結果の ポイント

- ・ 上位から「プライバシーが守られる」が39.3%、「身近な場所の相談窓口がある」が38.9%
- ・ 「土日でも相談ができる」、「予約なしで相談ができる」、「専門性の高い相談ができる」、「1か所で色々な相談ができる」なども3割以上

図表6 相談窓口相談しやすくするために必要だと思うこと



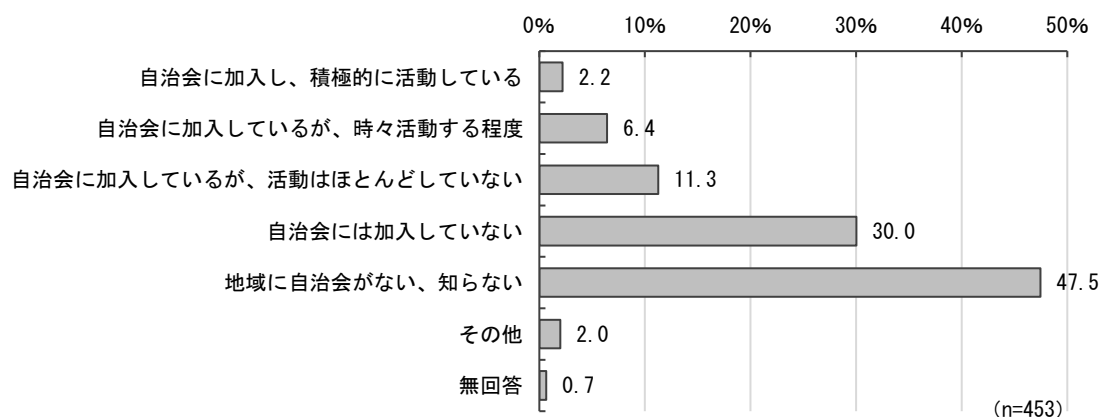
3. 地域でのつながり・コミュニティについて

(1) 自治会の加入状況

結果の ポイント

- ・ 「地域に自治会がない、知らない」が 47.5%、「自治会には加入していない」が 30.0%、
- ・ 『自治会に加入している』割合は、19.9%

図表7 自治会の加入状況

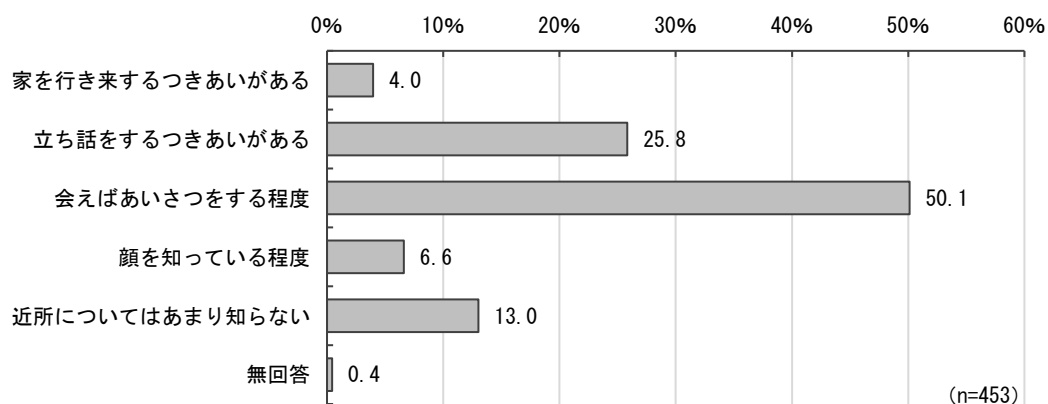


(2) ご近所づきあいの状況

結果の ポイント

- ・ ご近所づきあいの状況は、「会えばあいさつをする程度」が 50.1%と最も多い

図表8 ご近所づきあいの状況

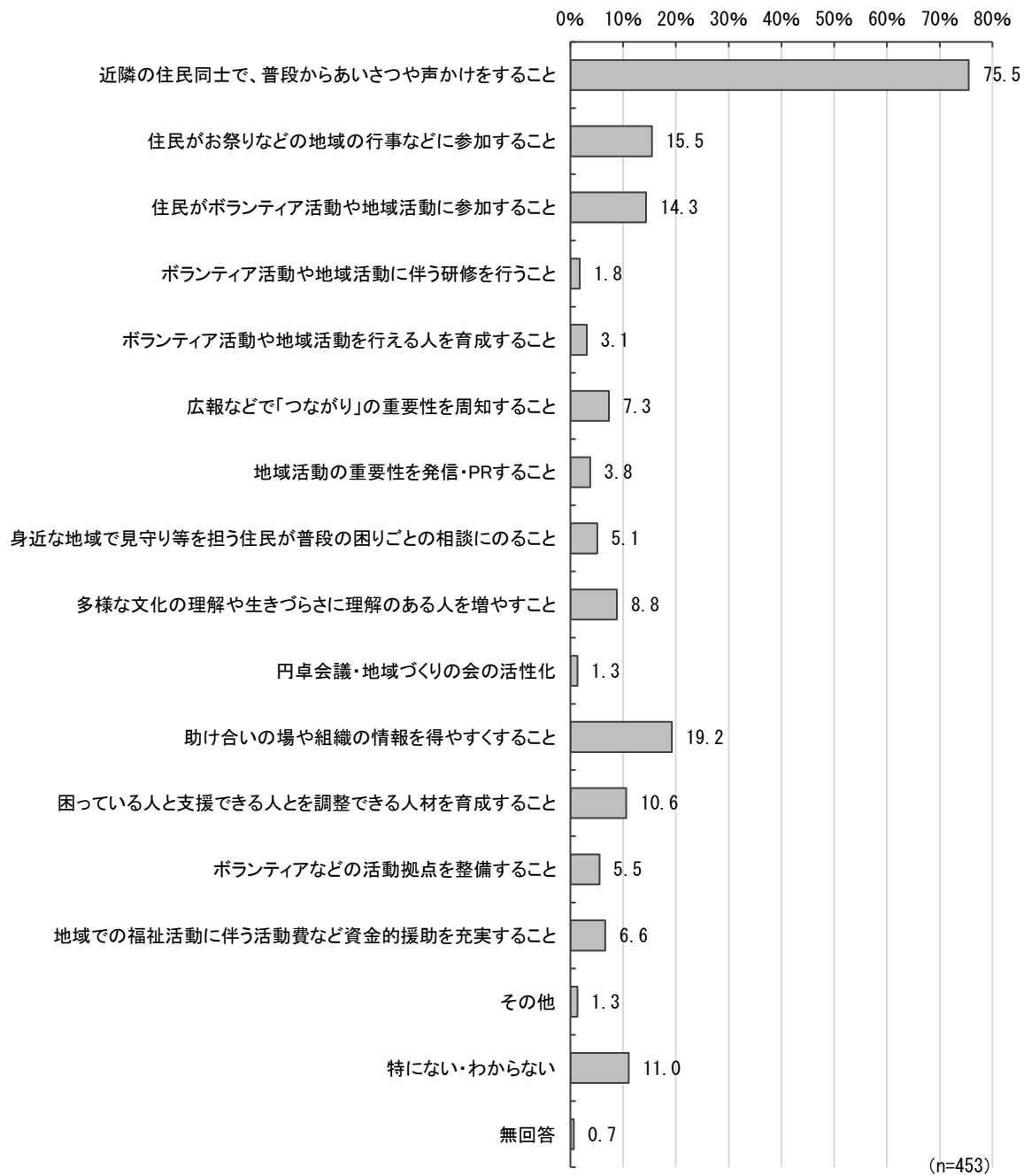


(3) 地域でのつながりをつくるために必要なこと

結果の ポイント

- ・ 上位3位は、「近隣の住民同士で、普段からあいさつや声かけをすること」が75.5%、「助け合いの場や組織の情報を得やすくすること」が19.2%、「住民がお祭りなどの地域の行事などに参加すること」が15.5%

図表9 地域でのつながりをつくるために必要なこと



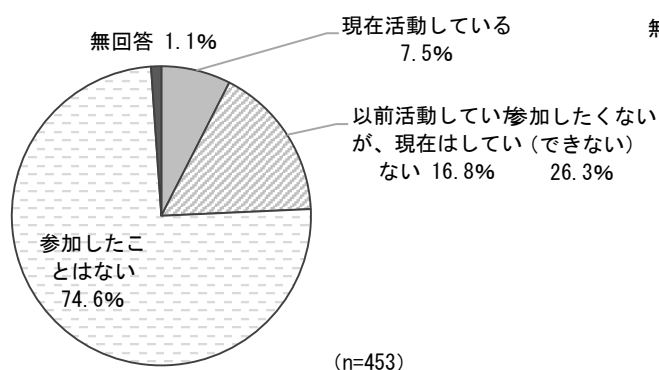
4. 社会参加・地域活動について

(1) ボランティア活動や地域活動への参加状況と参加意向

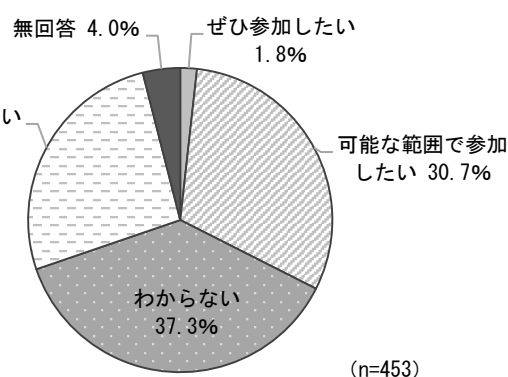
結果の ポイント

- ・ ボランティア活動や地域活動へ参加は、「参加したことはない」が74.6%
- ・ ボランティア活動等の参加意向では、『参加したい』が32.5%

図表 10 ボランティア活動等への参加状況



図表 11 ボランティア活動等への参加意向

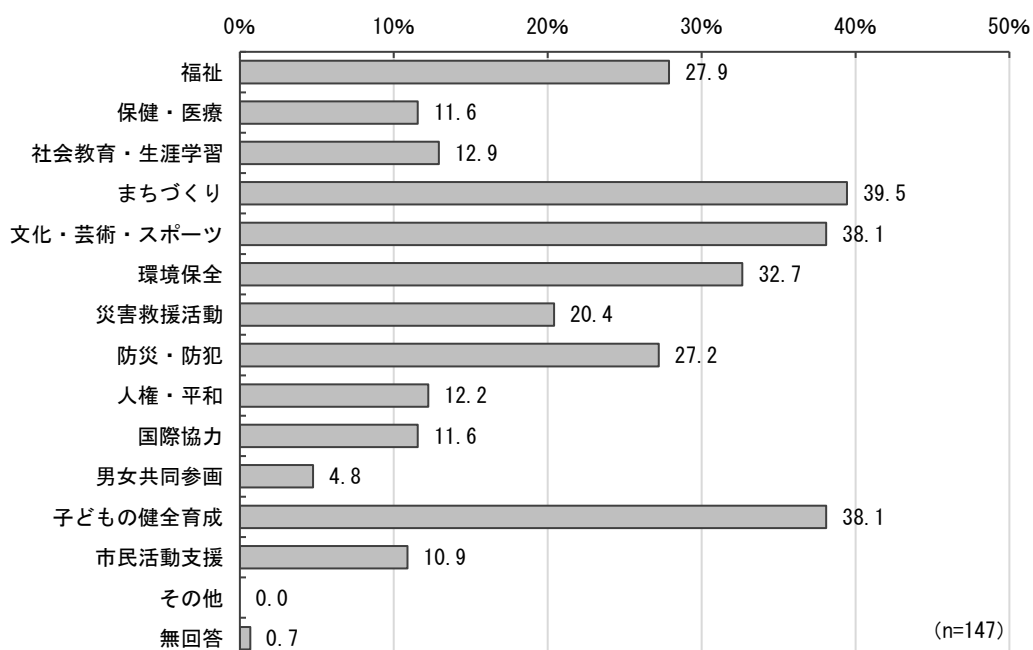


(2) 参加してみたいボランティア活動の内容（参加したい方のみ）

結果の ポイント

- ・ 参加してみたい内容の上位は、「まちづくり」が39.5%、「文化・芸術・スポーツ」と「子どもの健全育成」が38.1%、「環境保全」が32.7%

図表 12 参加してみたいボランティア活動内容

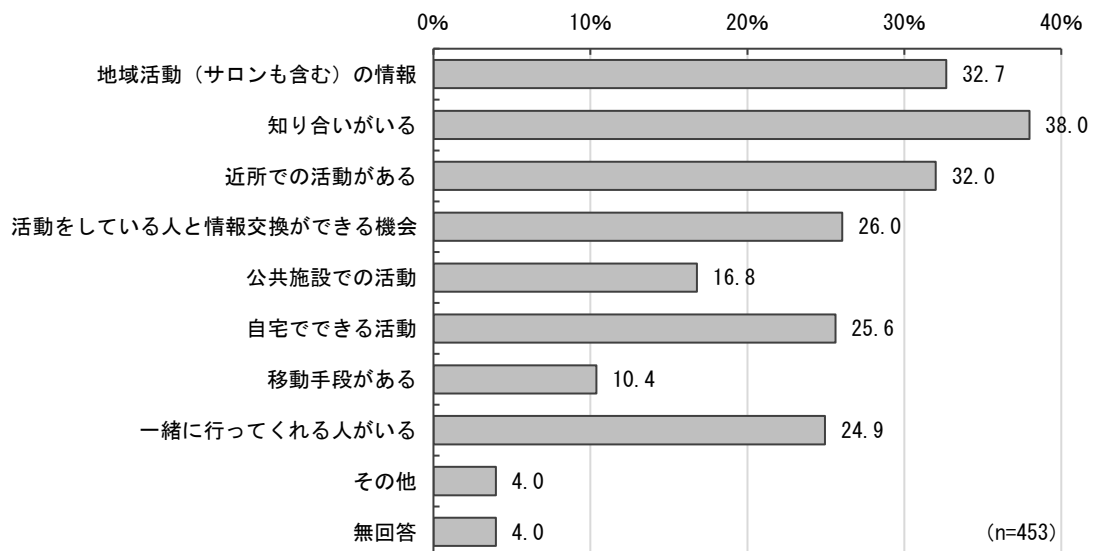


(3) 多くの人がボランティア活動や地域活動に参加するために必要な環境づくり、条件等

結果の ポイント

- ・ ボランティア活動等の参加に必要な条件の上位3位は、「知り合いがいる」が38.0%、「地域活動（サロンも含む）の情報」が32.7%、「近所での活動がある」が32.0%

図表 13 ボランティア活動等への参加条件

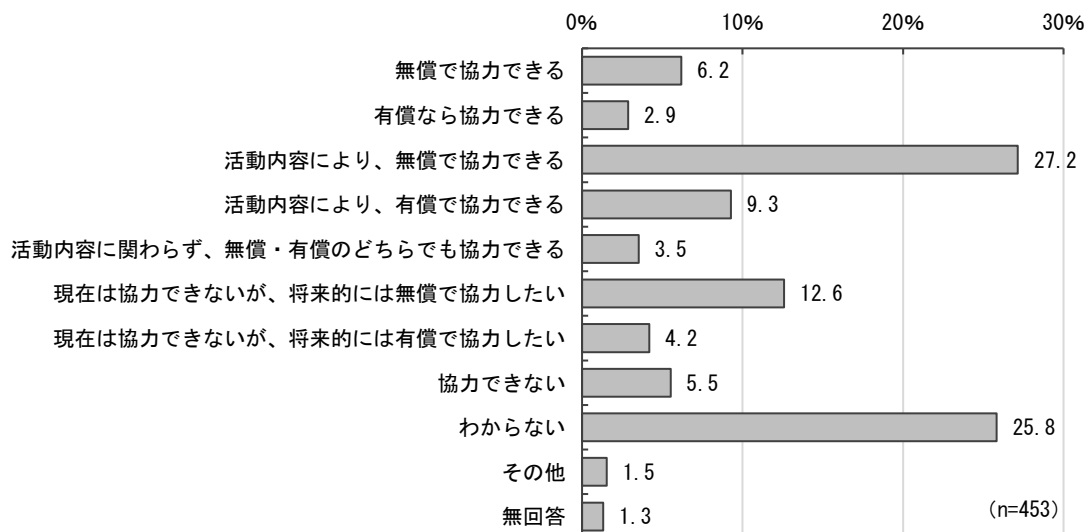


(4) 地域での活動に協力してもいいと思うか

結果の ポイント

- ・ 地域での活動協力では、「活動内容により、無償で協力できる」が27.2%と最も多い

図表 14 地域での活動への協力



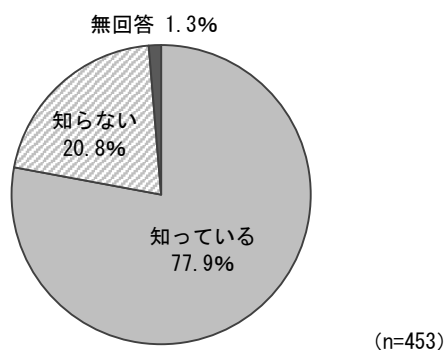
5. 災害時の対策等について

(1) 災害のときの避難場所・避難所の認知状況

結果の ポイント

- ・ 災害のときの避難場所・避難所については、「知っている」が77.9%

図表 15 災害のときの避難場所・避難所の認知状況

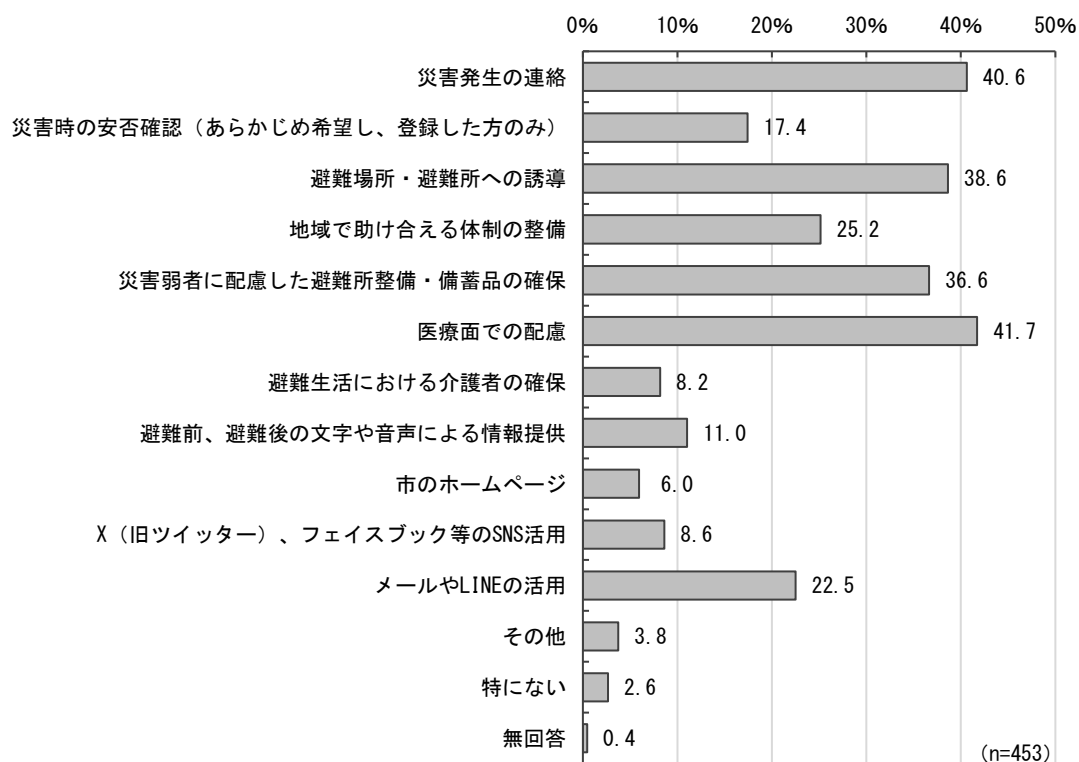


(2) 災害（地震など）時の対策として、充実してほしいこと

結果の ポイント

- ・ 災害時の対策として充実してほしいことの上位3位は、「医療面の配慮」が41.7%、「災害発生時の連絡」が40.6%、「避難場所・避難所への誘導」が38.6%
- ・ 「メールやLINEの活用」も22.5%とやや多い

図表 16 災害（地震など）時の対策として充実してほしいこと



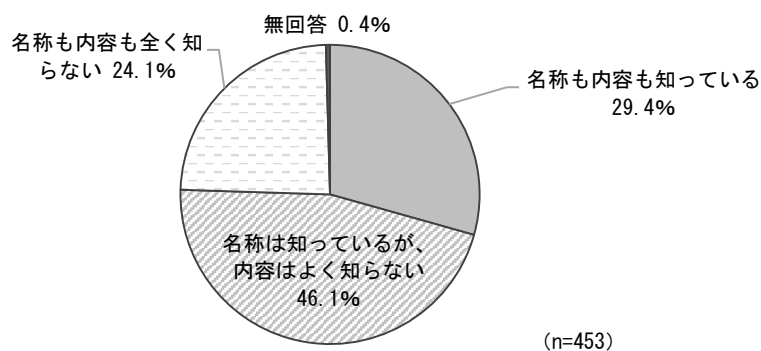
6. 権利擁護について

(1) 「成年後見制度」の認知度

結果の ポイント

- ・ 『成年後見制度』について、「名称も内容も全く知らない」が24.1%

図表 17 成年後見制度の認知度

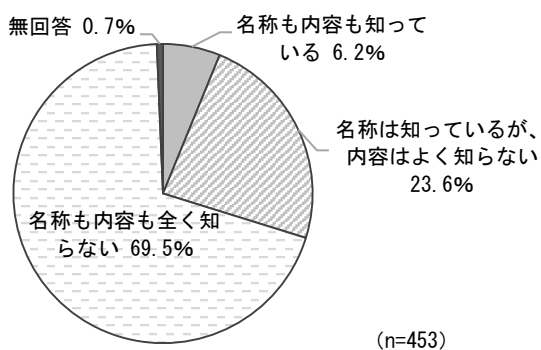


(2) 「市民後見人」の認知度

結果の ポイント

- ・ 『市民後見人』について、「名称も内容も全く知らない」が69.5%

図表 18 市民後見人の認知度

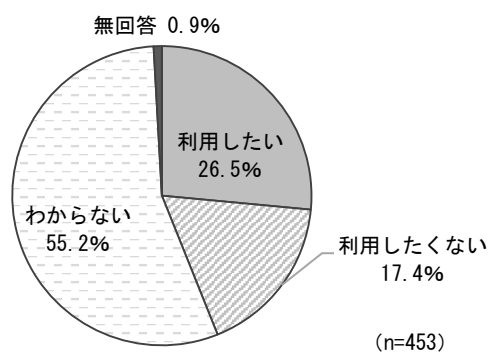


(3) 将来的な成年後見制度の利用希望

結果の ポイント

- ・ 自身の判断能力が不十分となった場合に『成年後見制度』の利用希望では、「利用したい」が26.5%、「利用したくない」が17.4%

図表 19 将来的な成年後見制度の利用希望



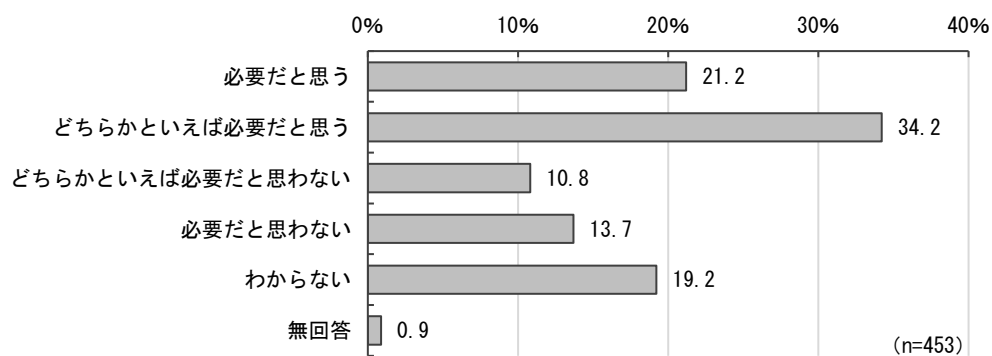
7. 再犯防止について

(1) 罪を犯した人への支援の必要性

結果の ポイント

- ・ 罪を犯した人への支援の必要性については、『必要』が55.4%

図表 20 罪を犯した人への支援の必要性

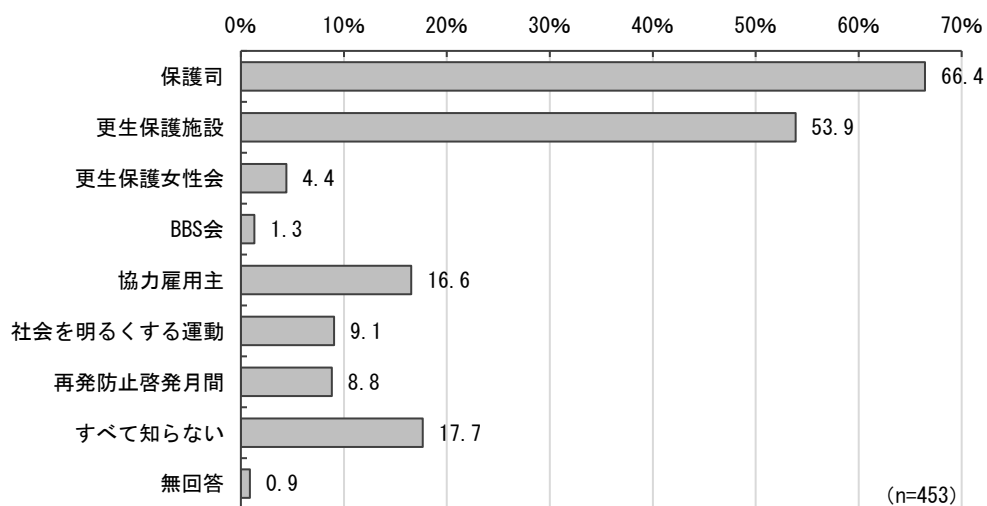


(2) 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援の認知度

結果の ポイント

- ・ 「保護司」が66.4%、「更生保護施設」が53.9%
- ・ 「すべて知らない」が17.7%

図表 21 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生機能を支援の認知度

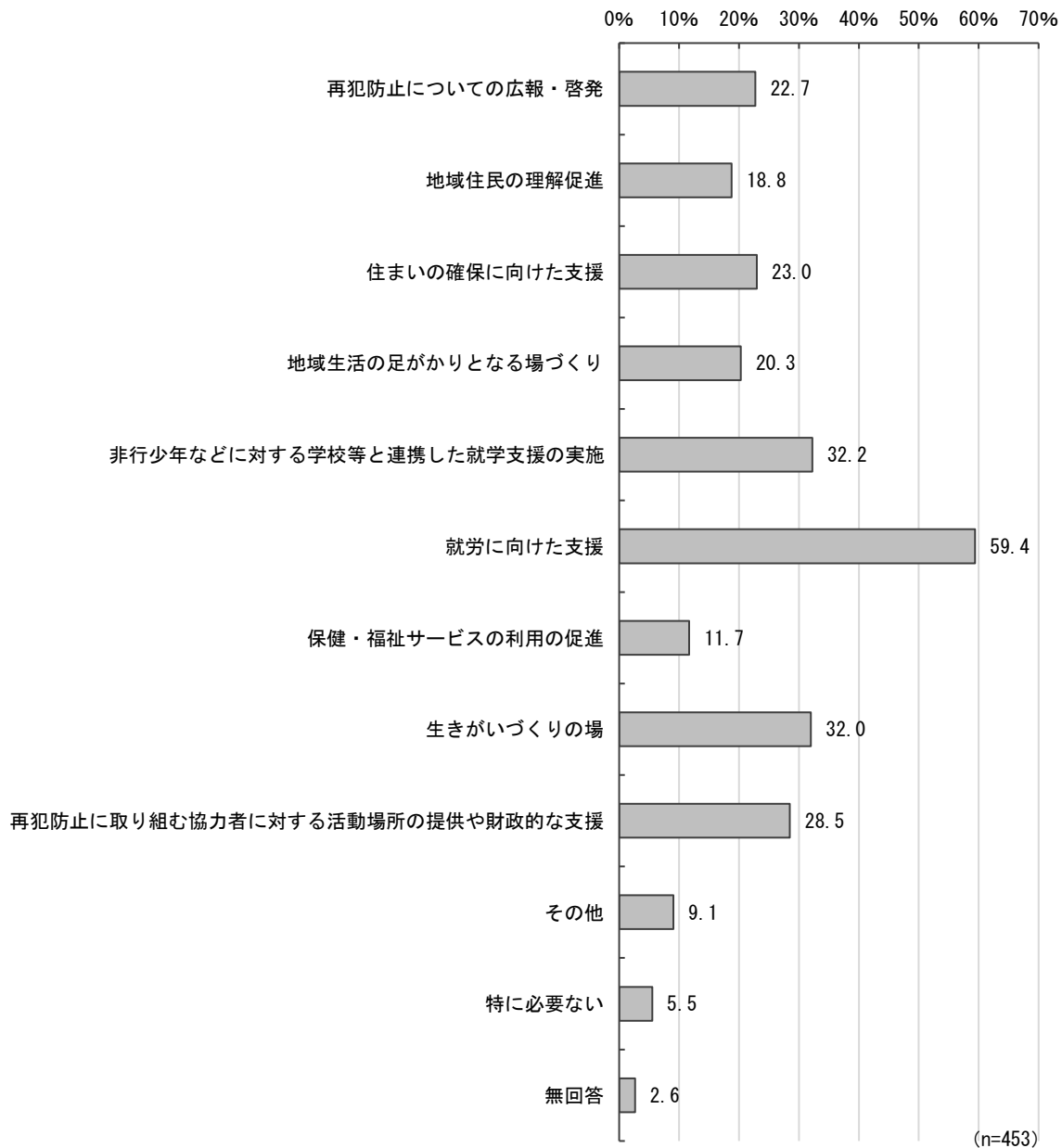


(3) 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの再犯防止のために必要なこと

結果の ポイント

- ・ 再犯防止のために必要なことの上位3位は、「就労に向けた支援」が59.4%、「非行少年などに対する学校等と連携した就学支援の実施」が32.2%、「生きがいつくりの場」が32.0%

図表 22 再犯防止のために必要なこと



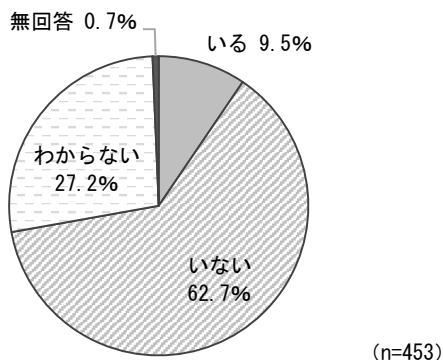
8. 孤独・孤立の状態にある方への支援について

(1) 周囲に孤独・孤立の状態にある方の有無

結果の ポイント

- ・ 周囲に孤独・孤立状態にある方が、「いる」が9.5%

図表 23 周囲の孤独・孤立状況

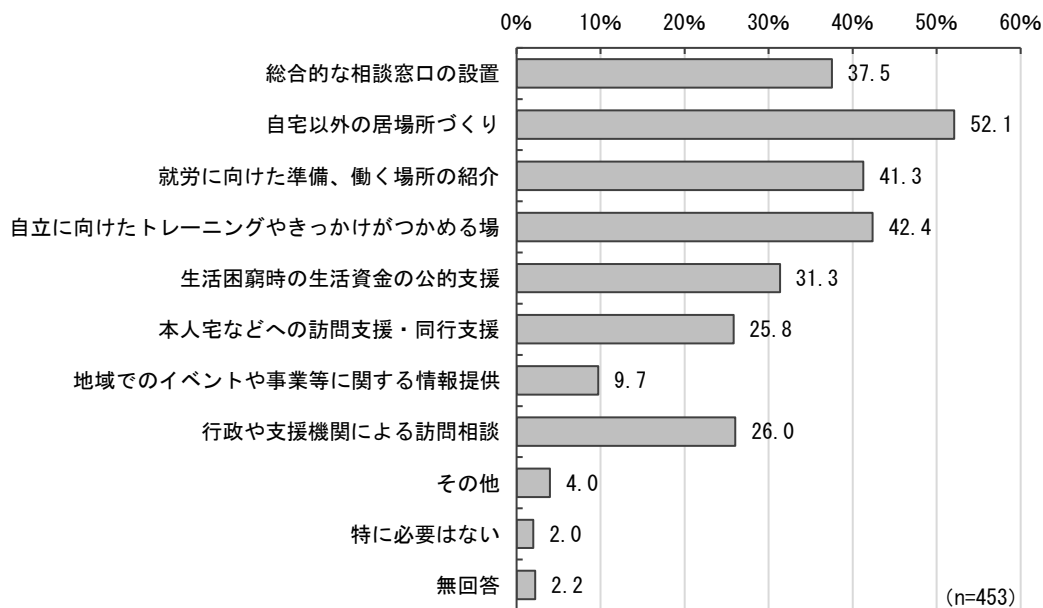


(2) 孤独・孤立の状態にある方への支援として必要な取組

結果の ポイント

- ・ 必要な取組の上位3位は、「自宅以外の居場所づくり」が52.1%、「自立に向けたトレーニングやきっかけがつかめる場」が42.4%、「就労に向けた準備、働く場所の紹介」が41.3%

図表 24 孤独・孤立の方への必要な支援



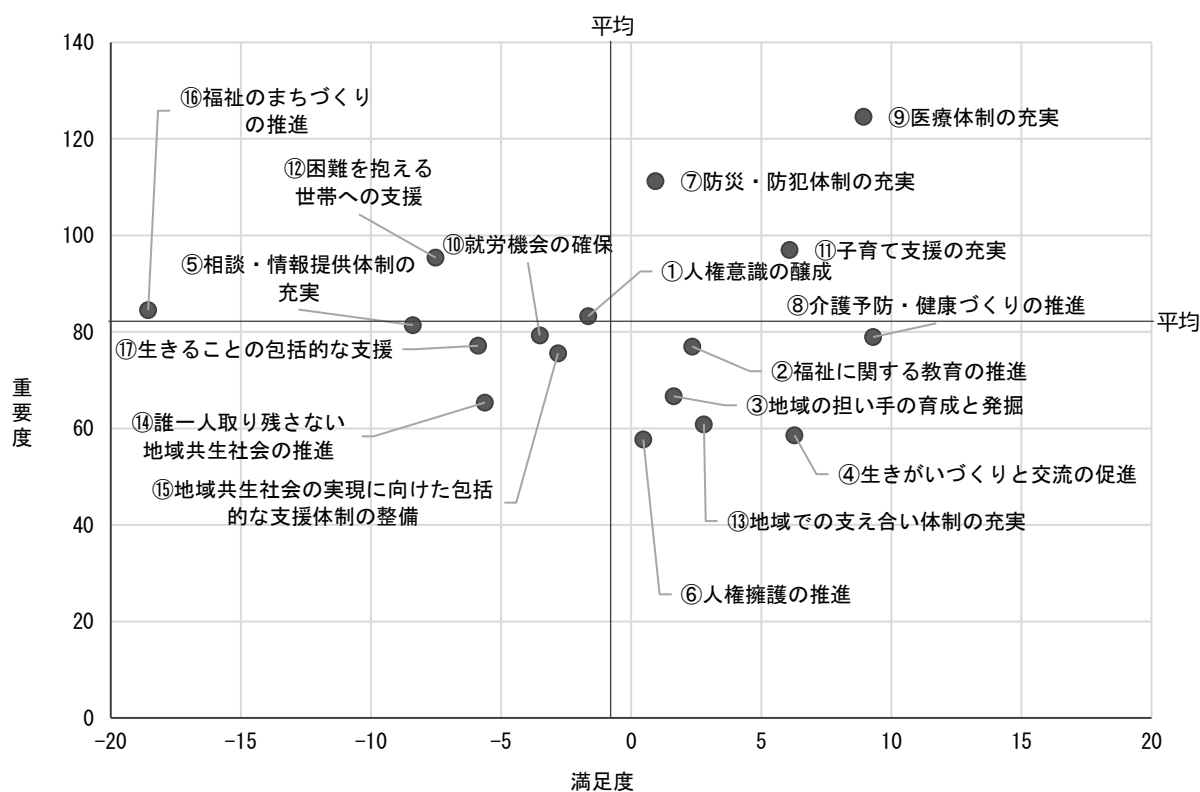
9. 市の福祉資源について

(1) 地域福祉に関する取組の満足度と重要度

結果のポイント

- ・ 【⑨医療体制の充実】、【⑦防災・防犯体制の充実】、【⑪子育て支援の充実】に関する取組が、満足度と重要度がともに高い
- ・ 【⑭誰一人取り残さない地域共生社会の推進】、【⑮地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備】に関する取組が、満足度と重要度がともに平均を下回っている
- ・ 【⑫困難を抱える世帯への支援】、【⑩福祉のまちづくりの推進】に関する取組は、重要度が高いが満足度は平均を下回っている
- ・ ⑧介護予防・健康づくりの推進】、【④生きがいがづくりと交流の促進】、【②福祉に関する教育の推進】、【③地域の担い手の育成と発掘】、【⑬地域での支え合いの充実】、【⑥人権擁護の推進】に関する取組は、満足度は平均を上回っているが重要度が平均を下回っている

図表 25 地域福祉に関する取組の満足度と重要度



第3章 団体調査

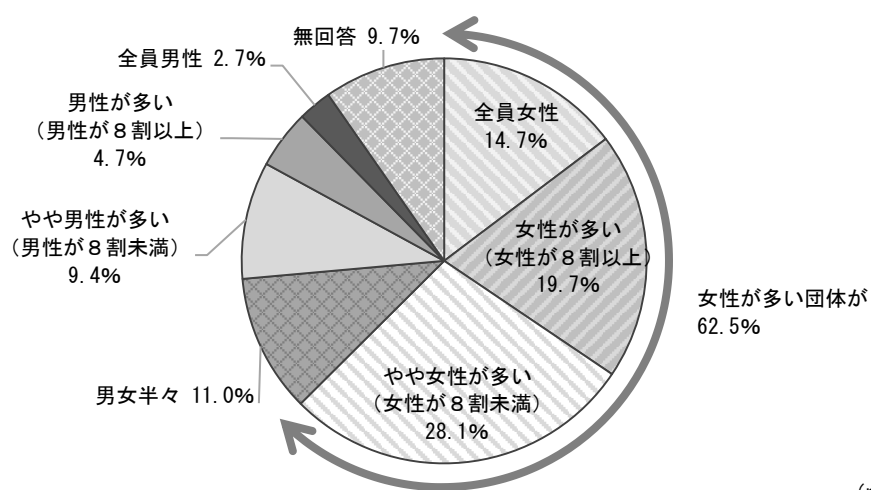
1. 基本属性（貴団体等について）

（1）団体・グループの会員・職員の男女比率

結果の
ポイント

- ・ 会員・職員の男女比では、女性が多い団体が多い

図表 26 団体の性別構成比



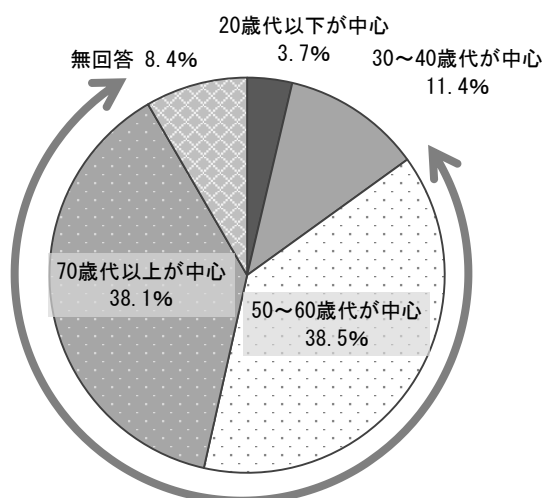
(n=299)

（2）団体・グループの会員・職員の年齢

結果の
ポイント

- ・ 団体・グループの会員・職員の中心となる年代は、「50～60 歳代が中心」が 38.5%、「70 歳代以上が中心」が 38.1%と高齢者が多い

図表 27 団体・グループの年齢別構成比



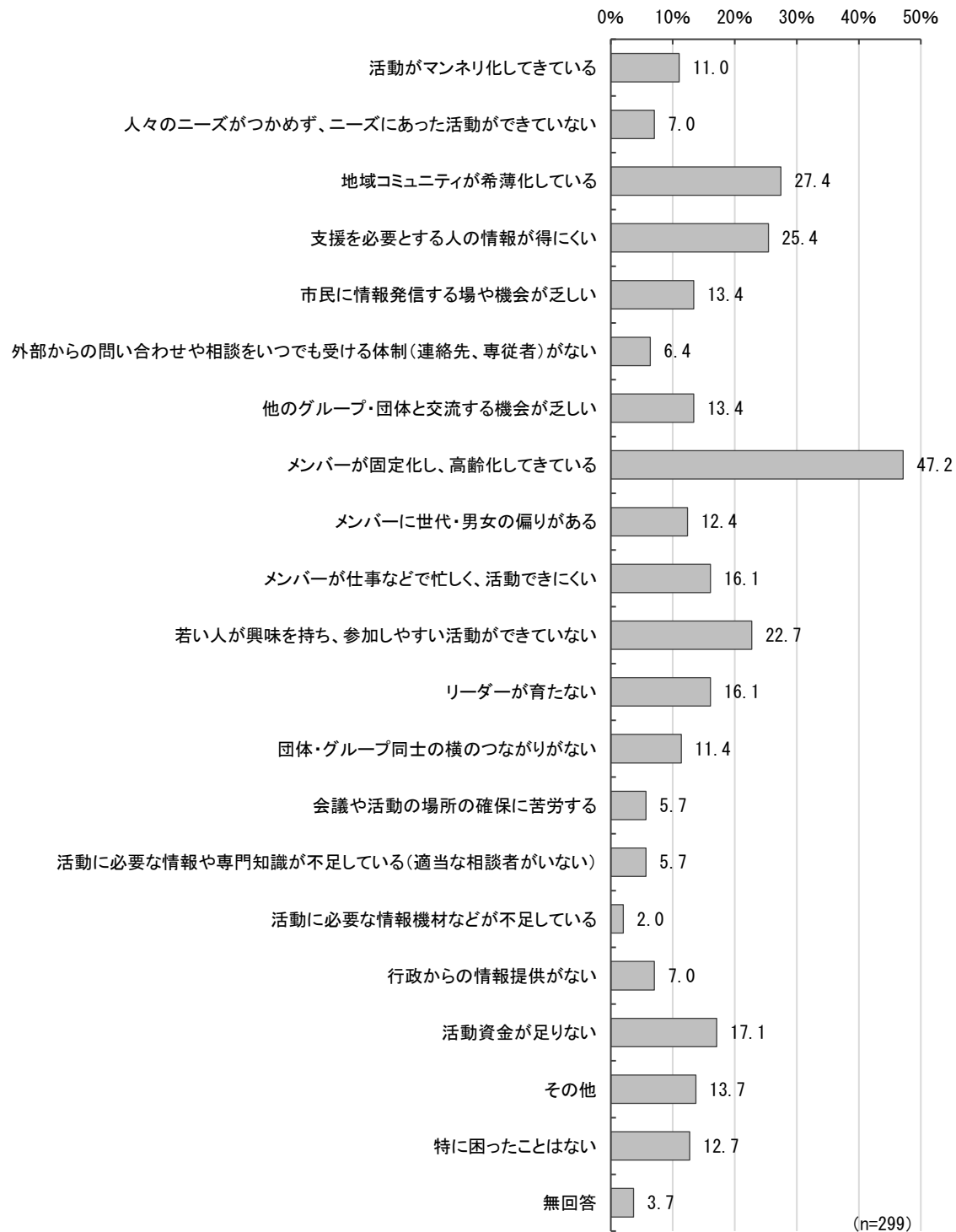
(n=299)

(3) 団体・グループ等の主となる事業、または地域活動を行う上で困っていること

結果の ポイント

- ・ 困っていることの上位3位は、「メンバーが固定化し、高齢化してきている」が47.2%、「地域コミュニティが希薄化している」が27.4%、「支援を必要とする人の情報が得にくい」が25.4%

図表 28 団体・グループ等の活動で困っていること



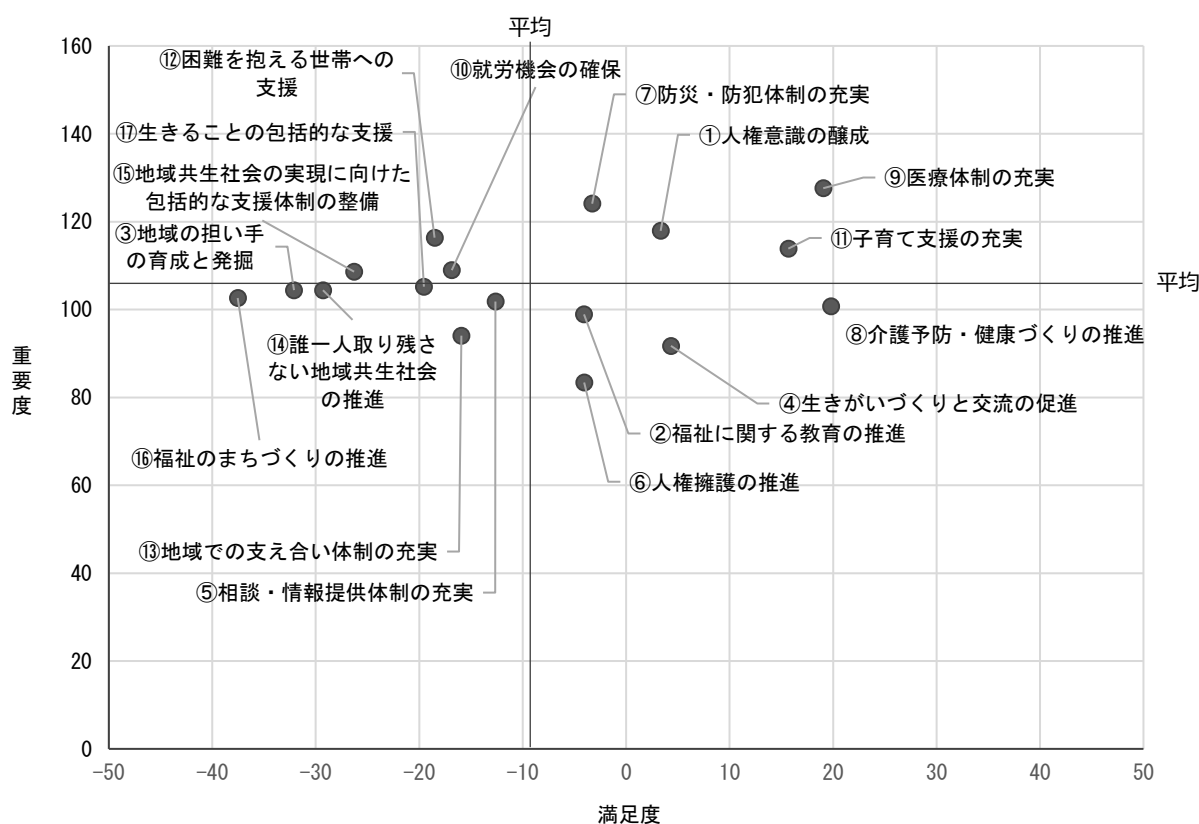
2. 地域福祉について

(1) 地域福祉に関する取組の満足度と重要度

結果のポイント

- ・ 満足度と重要度の相関関係をみると、【⑨医療体制の充実】、【⑦防災・防犯体制の充実】、【①人権意識の醸成】、【⑪子育て支援の充実】に関する取組が、満足度と重要度がともに高い
- ・ 【⑬地域での支え合い体制の充実】、【⑯福祉のまちづくりの推進】、【⑤相談・情報提供体制の充実】に関する取組が、満足度と重要度がともに平均を下回っている。
- ・ 【⑫困難を抱える世帯への支援】、【⑩就労機会の確保】、【⑮地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備】に関する取組は、重要度が高いが満足度は平均を下回っている
- ・ 【⑧介護予防・健康づくりの推進】、【④生きがいがづくりと交流の促進】、【②福祉に関する教育の推進】、【⑥人権擁護の推進】に関する取組は、満足度は平均を上回っているが重要度が平均を下回っている。

図表 29 地域福祉に関する取組の満足度と重要度

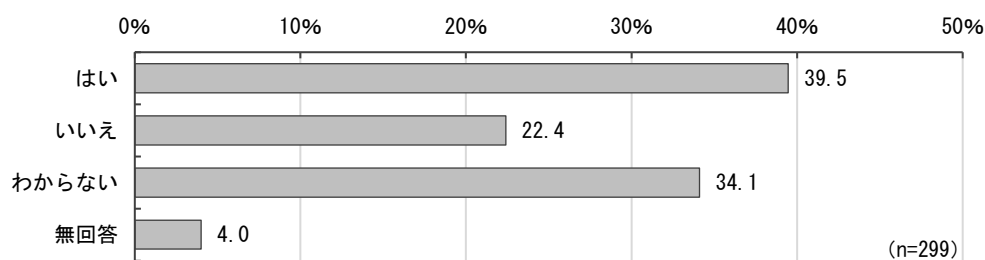


(2) 複数の課題（生活困窮・障害・ひきこもり・介護など）を抱えている人の有無

結果の ポイント

- ・ 団体の利用者の中に複数の課題を抱えている人の有無では、「はい」が39.5%

図表 30 団体・グループ等の中に、複数の課題を抱えている人の有無

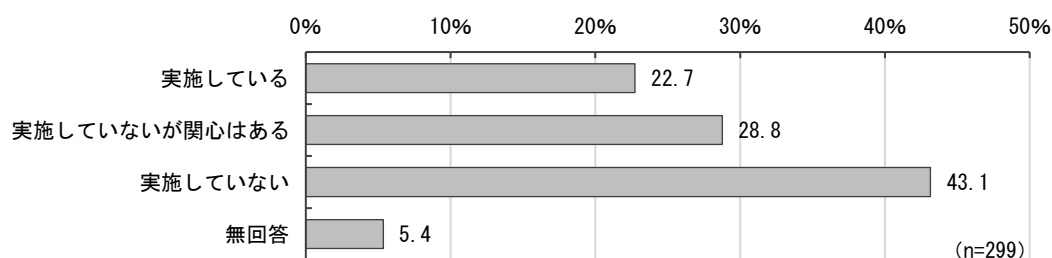


(3) アウトリーチ活動（地域の困難を抱える人々に積極的に接触し支援する活動）の実施状況

結果の ポイント

- ・ アウトリーチ活動を「実施している」団体は22.7%

図表 31 アウトリーチ活動の実施状況

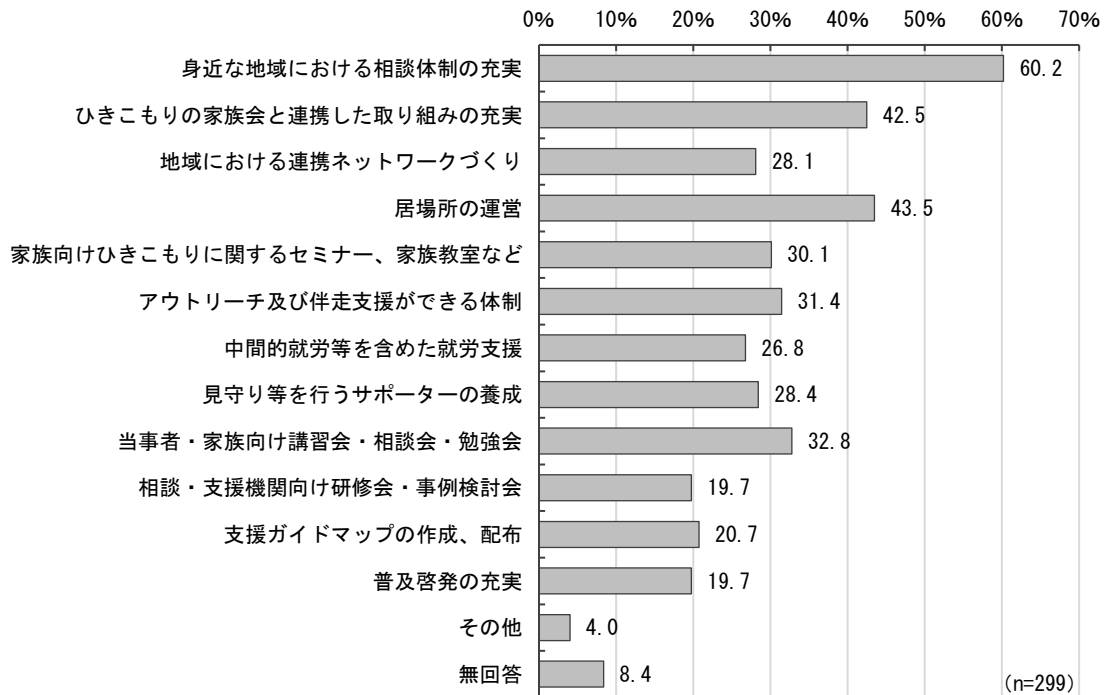


(4) 今後取り組む必要がある ひきこもりに係る支援

結果の ポイント

- ・ 上位3位は、「身近な地域における相談体制の充実」が60.2%、「居場所の運営」が43.5%、「ひきこもりの家族会と連携した取り組みの充実」が42.5%

図表 32 今後取り組む必要がある ひきこもり支援

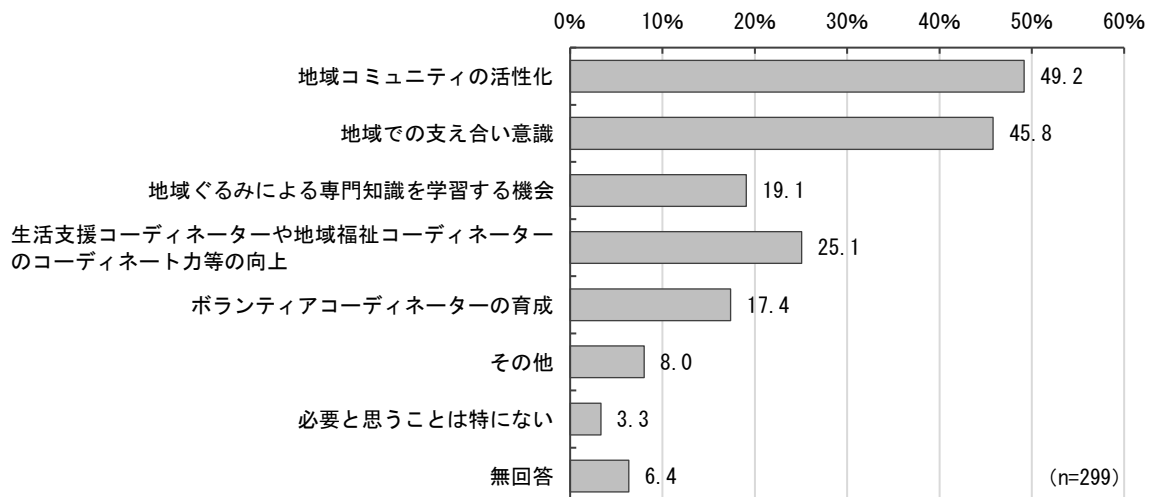


(5) 地域で福祉を担う人材を育成するために、必要なこと

結果の ポイント

- ・ 上位は、「地域コミュニティの活性化」が49.2%、「地域での支え合い意識」が45.8%

図表 33 地域で福祉を担う人材を育成するために、必要なこと



第4章 こども調査

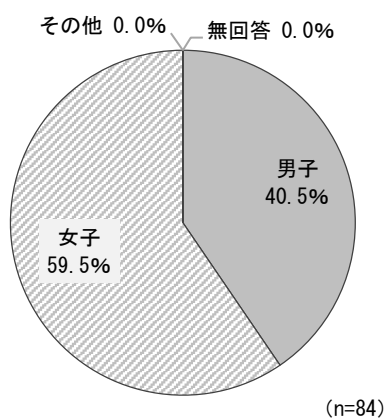
1. 基本属性

(1) 性別と学年

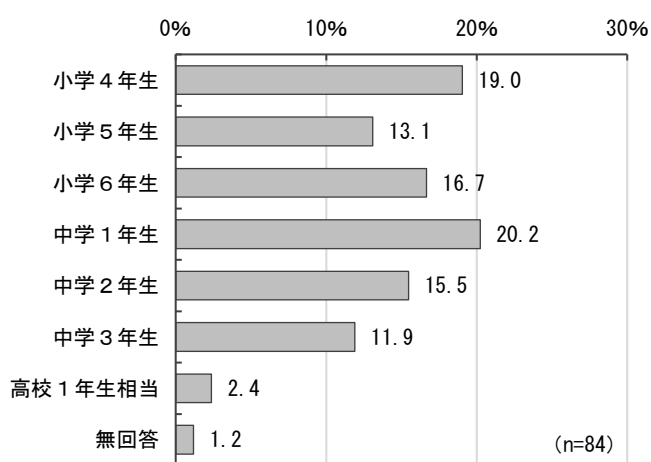
結果の ポイント

- ・ 回答者の性別は、「男子」が40.5%、「女子」が59.5%
- ・ 回答者の学年は、「中学1年生」と「小学4年生」が多い

図表 34 こどもの性別



図表 35 こどもの学年



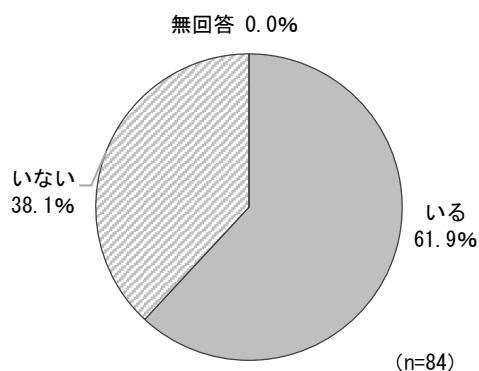
2. 放課後以降の過ごし方

(1) 放課後以降に宿題をみてくれる大人の有無

結果の ポイント

- ・ 宿題を見てくれる大人は、「いる」が61.9%、「いない」が38.1%

図表 36 放課後以降に宿題をみてくれる大人の有無



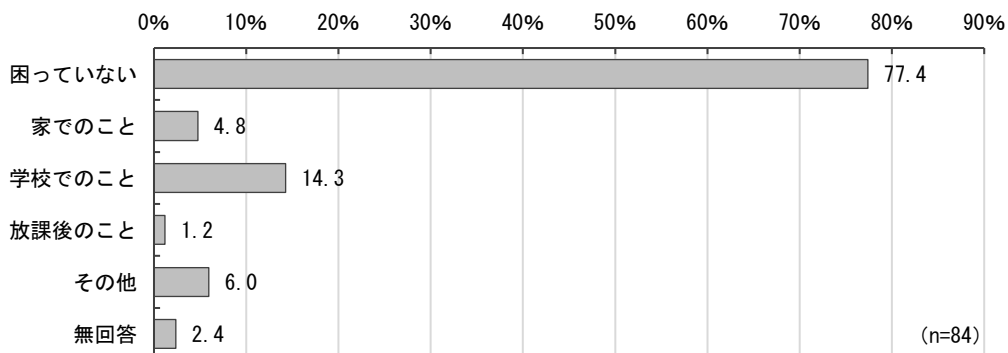
3. 困りごとや相談先

(1) 生活の中で困っていること

結果の ポイント

- ・ 「困っていない」が77.4%と最も多い

図表 37 生活の中で困っていること

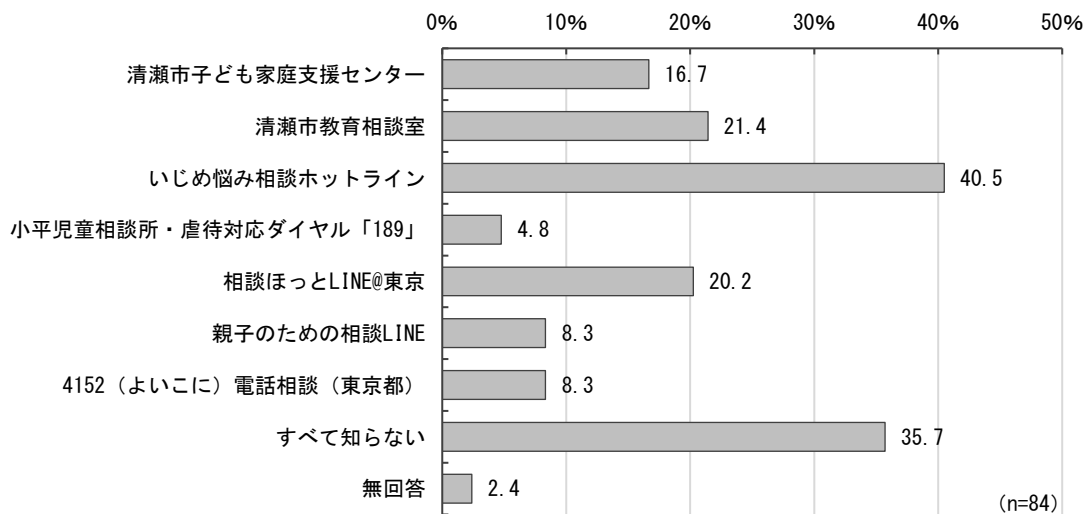


(2) 困った時の相談先の認知度

結果の ポイント

- ・ 上位3位は、「いじめ悩み相談ホットライン」が40.5%、「清瀬市教育相談室」が21.4%、「相談ほっとLINE@東京」が20.2%
- ・ 「すべて知らない」が35.7%

図表 38 困った時の相談先の認知度



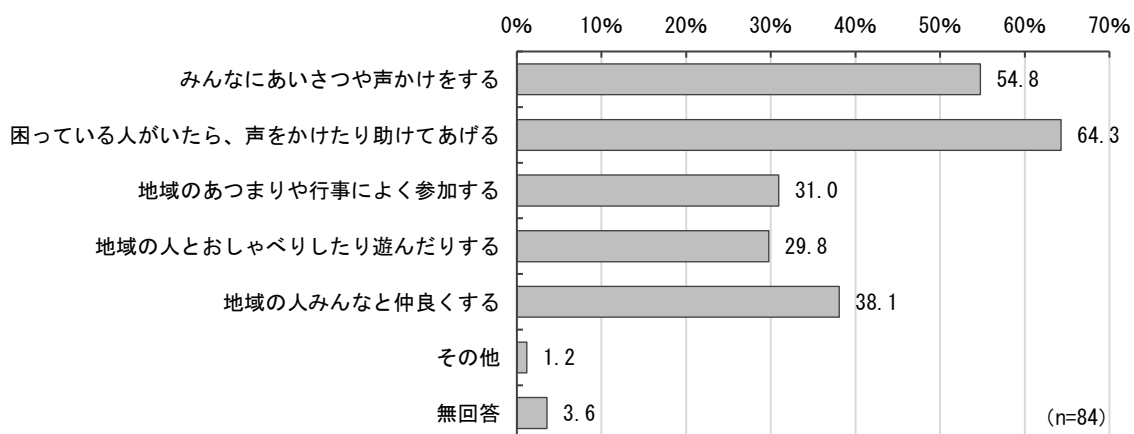
4. 清瀬の将来・未来像について

(1) 清瀬市でみんなが「安心」して楽しく暮らすために、あなたが出来そうなこと

結果の ポイント

- ・ 上位3位は、「困っている人がいたら、声をかけたり助けてあげる」が64.3%、「みんなにあいさつや声かけをする」が54.8%、「地域の人みんなと仲良くする」が38.1%

図表 39 みんなが安心して楽しく暮らすために、出来そうなこと



清瀬市地域福祉計画・清瀬市民地域福祉活動計画策定に向けた調査報告書 概要版

令和8年3月

清 瀬 市

発 行 清瀬市 福祉子ども部 福祉総務課
〒204-8511 清瀬市中里 5 丁目 842 番地
TEL 042-492-5111（代表）
